

2024 年度国際関係論専攻 調査研究助成
調査・研究報告書

2025 年 1 月 24 日

B2466586

出口隼詩

研究課題：

米中競争時代において商業宇宙企業が国家安全保障と軍事戦略で果たす役割とその背景について

研究成果の報告：

本助成では第 68 回宇宙科学技術連合講演会の学会経費と書籍購入費用を申請した。以下学会参加時のフィードバックと書籍などの調査により明らかになった事項を示す。

<学会参加時のフィードバック>

11 月 6 日に「第 68 回宇宙科学技術連合講演会」の OS（オーガナイズド・セッション）「持続可能な宇宙活動に必要な法政策（1）」にて「アクターの拡大と変化に伴う持続可能な宇宙利用」というタイトルで発表を行った。本発表では宇宙開発をめぐる米中競争が激化していく中で、商業企業の技術がどのように宇宙安全保障へ影響を与えているのかを分析した。発表では米国と中国の宇宙活動を事例として扱った。その結果、政府や軍が商業技術を用いることで国家の軍事力へ影響を与えているという点を指摘した。

当日の発表では、プレゼンテーションの最後に宇宙安全保障法政策における日本の役割を述べた。私は宇宙の持続可能性に向けて、政府や商業企業などすべてのアクターが参入をするルール形成の場が必要であるということを主張した。質疑応答では当日会場で発表を聞いてくださった現地の自衛官から「現状、日本の宇宙分野では、そういったルール形成の場があるのかどうか」と質問を受けた。私自身は答えられなかったが、同席をしていた防衛研究所の方から説明をしていただき、サイバー分野には様々なアクターが参加するルール形成の場があると教えていただいた。今後は宇宙領域だけでなく、サイバー領域や海洋領域など類似する分野にも視野を広げたい。

発表の内容について「問いと結論の内容がありきたりである」というご指摘もいただいた。今後は発表や論文の冒頭で問いとしての「パズル」を作り、それに対する答えを打ち出していけるのが求められる。

<調査により明らかになったこと>

本調査によって明らかになったことをいくつか示す。まず分析枠組みの再検討である。

学会の発表では宇宙活動の実施アクターに注目して「安全保障 (National Security)」、「民生 (Civil)」、「商業 (Commercial)」に分類し、これを分析枠組みとした。しかし宇宙活動の目的で「平和利用」か「軍事利用」に分類する方法も存在する。今回検討できたことは分析枠組みを設定する際に、宇宙開発のどの局面に注目をして分類するかである。目的、アクター、宇宙活動の内容によって切り口は異なってくる。従って今回は本格的な分析枠組みの設定にまでは至らず、修士論文を執筆する際に分析を通じて設定していく予定だ。

次に米国と中国の宇宙安全保障政策の歴史である。特に商業企業の関与事例を調査した。重要な例は 1996 年に中国のロケットで、米国ロラルスペース&コミュニケーションの衛星が打ち上げられた時、軌道投入に失敗した際のレビューで米国の機密情報を中国側に開示してしまった事件が挙げられる。本事例は技術が安全保障と密接に結びついており、国家間関係に影響を与えることを示す例である。調査では以上の例が商業企業の関与例としての先行研究として見つかったが、他にもどのような歴史と事例があるのかをさらに調査中である。現時点では「宇宙」に限っているので、範囲が狭いためサイバーや海洋などの類似分野も併せて調査を続けていきたい。

助成では John Klein の *Understanding Space Strategy: The Art of War in Space* (Space Power and Politics) と *Space Warfare : Strategy, Principles and Policy* (Space Power and Politics) (2ND) を申請し、軍事戦略と宇宙活動の関係及び宇宙領域の競争を分析するためのフレームワークを調査した。前者の書籍では宇宙における政治的目標を達成するために可能な手段を記述する区分として“civil”, “commercial”, “intelligence”, “military”の 4 つを挙げている (Klein 7)。また商業宇宙セクターの軍事戦略における役割は戦略開発において実質的な役割を担うことがわかった (Klein 203)。今後は、どのような商業セクターがどのような宇宙領域の活動を担うことができるかを詳しく調査したい。一方、後者の書籍では研究開始以来、疑問であった「競争 (competition)」と「対立 (conflict)」の違いが明らかになった。著者は Peace-Conflict Continuum と称し、「平和 (Peace)」「競争 (competition)」「Crisis (危機)」「対立 (conflict)」と変遷していくことを示している (Klein 70 Figure4.1)。またこうした考え方は米国統合参謀本部が公表した「統合キャンペーン実施に関する統合コンセプト (JCIC)」において、米国と他国及び非国家アクターとの関係性を理解する枠組みとして提起された「競争スペクトラム (competition continuum)」にて詳しく述べられている。以上の枠組みを用いながら、宇宙空間における米中の関係が、特に安全保障や軍事において競争しているのか、対立しているのかを分析できると考えられる。

以上助成による研究成果の報告とする。

参考資料

菊池茂雄. “米軍における情報戦概念の展開 (上) —ソ連軍「無線電子戦闘」(REC) から「情報環境における作戦」(OIE) へ.” 2023 年. 防衛研究所 NIDS コメンタリー第 267 号.